

研究所だより

教育三笠

第222号

発行／三笠市教育研究所

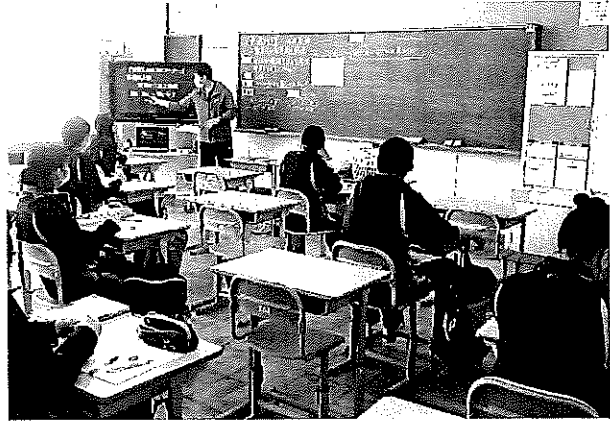
■新年度のあいさつ

■三笠市立教育研究所運営計画

【三笠中学校】



入学式



分散登校

本年度は、運営委員会を紙面会議とさせていただき、確認された研究課題解決のために、小学校社会科副読本の改訂に向けて、研究編集作業を進めております。特に前回の編集から9年が経過し、街の様子や各種施設も大きく変化していることから、新しい学習内容に沿った写真や資料の編集が重要になります。また近年、地震や洪水、土砂崩れなどの自然災害が多発する中で、東日本大震災を踏まえて「生きる力を育む防災教育」の推進が重要視されています。

このような有事の中、子どもたちや保護者の方々の不安に向き合いながら、アイデアを出され、それぞれの学校での取り組みが進められて、少しずつ明るいきざしへと広がっていくことを願うばかりです。

つ白だった大地に、草花が彩を増しても、いつもと違う日々の中、昨年は考えもしなかった出来事の毎日に奮闘されておられます教職員の皆様に心から敬意を表します。



今は平時ではない：三笠の地にも新緑の便りが届き、真

困難な中でも 未来を拓く教育を

三笠市教育研究所長 松井牧子

さて、本市が北海道で初めて取り組んだ「小中一貫教育」も数年が経過し、指導内容を工夫改善しながら、9年間を見通した学びが展開されています。国際科は小学校1年生からの英語活動を導入しましたが、高学年英語科、中学年の外国語活動と、コミュニケーション能力重視の中で、本市の先進的な取り組みは、今日の学習内容を先見したものと考えます。また、地域科学習内容も、本市がジオパークに認定されて後、より「ふるさと」の探求を目指した内容へと変化しました。今後は三笠市の実際の姿を理解して、「街づくり」へと努力している人々の営みに気づくことで、自ら関わり、生き方について考える学習と深化していくことが大切であります。

困難な日々の中で、三笠に生きる子ども自身が未来を拓く力を培うための小中一貫教育のさらなる充実を願います。

ご挨拶

三笠市教育委員会教育長 高森 裕司



教育研究所をはじめ、教育関係者の皆様には、日頃より本市の教育行政の推進にご尽力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、私たちが経験したことのない出来事であり、依然として終息が見えない状況にあります。今後においても先行き不透明な状況ではありますが、事態の変化を注視しながら、子どもたちの生命と安全を守るために、その都度対策を迅速に講じていかなければならないと考えております。社会全体が一日も早く通常の機能を取り戻し日々の生活が営まれ、そして子どもたちが一日も早く通常通りの学校生活を迎え、充実した日々を過ごすことができるよう最大限の努力を重ねてまいりますので、皆さまのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

グローバル化は社会に多様性をもたらし、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつあります。こうした社会的変化の影響が、社会のあらゆる領域に及んでいる中、教育の在り方についても新たな事態に直面しております。10年ぶりに改訂された新学習指導要領においては、本年度より小学校から順次全面実施されるとともに、地域との連携、協働による「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子どもたちが未来社会を切り開くための資質・能力を確実に育むために、教科横断的な視点に立った「カリキュラム・マネジメント」の確立と「主体的・対話的で深い学び」の実現を両輪として機能させることが求められています。

本市は、「人が育つまち三笠」を教育のめざす姿として、三笠市教育大綱を策定し、次代を担う子どもたちが、たくましく生きる力と思いやりのある心を育み、家庭・学校・地域の連携により、「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を基礎とする子どもたちの「生きる力」を育んでまいります。さらに、食のスペシヤリストを目指す三笠高校の生徒たちが、自らの道を切り拓き、社会で活躍できる人材として着実に成長できるように、三笠高校の振興に努めてまいります。

高校生レストランは、頑張っている生徒や校長はじめ先生方の努力により、全道・全国から年間約10万人のお客様にご利用いただいております。まちにたくさんのおもしろい話題と元気を与えていただいております。

また、本年度新たに地元出身者等の絵画などを展示する文化芸術振興促進施設「シエル」が、高校生レストラン隣に完成しました。「小さな美術館」をコンセプトとし、市民が広く文化芸術に触れる機会の拡充を図るとともに、高校生レストランの集客力を活かした一体的な取り組みにより、更なる交流人口の増加に努めてまいります。

教育研究所においては、松井所長はじめ研究所員や専門員を中心とした研究体制により、本市教育の重点政策である小中学校の防災教育教材を作成するなど、本市教育の研究課題に、日々ご尽力いただいております。ことに、心より感謝申し上げます。

今後とも、本市の将来を担う子どもたちがたくましく生きる力と思いやりのある心を育み、家庭・学校・地域の連携により、元気でたくましく学びながら成長できる教育環境づくりの充実に精一杯努めてまいりますので、本市の教育行政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

北海道三笠高等学校長 鈴木 浩



この4月より、三笠高校校長に着任しました鈴木浩です。市立として生まれ変わった新生三笠高校は大変活気のある高校として高い評価を得ており、その校長として奉職できることはこの上ない喜びです。どうぞよろしくお願ひします。

令和2年度の始まりは感染防止対策を施し、在校生及び新入生を迎えました。さらに、本校では大切な儀式である新入生の実習服・包丁貸与式を終え、さあ、いよいよ、という時に臨時休業が決まり、生徒たちは全道各地の自宅へ戻りました。

生徒がいよいよひとりで過ごした日が続く学校は、やはりどこか物足りなく、「生徒あつての私たち教職員」であることを実感しています。しかし、生徒が登校している時、いわゆる学校が走り続けている時ではやもすると見失いがちになる教育の大局的な視点が、この臨時休業の時期には様々と想起されることも事実です。苦境は成長のチャンスでもあることに気づかされます。

生徒たちもいよいよこの苦境を乗り越えるでしょう。誰かに元気をもらおうのではなく、自らが明るく、たくましく、おらかな気持ちで笑い飛ばせる生徒であってほしいです。それが難しくできるのはいつの時代でもまぎれず若者でしょう。青は藍より出でて藍より青し、とは名言です。子どもたちの多様な可能性の芽を摘まず、それを伸ばす教育をどう具体化していくのか。簡単なようで難しい、

研究済みのようだが実は未開発かもしれない大きな命題がまた思い浮かびました。

確かな学力を育成する三笠の教育へ

三笠市教育研究振興会会長 菊地 佳子



「新型コロナウイルス感染症」感染拡大による昨年度末から続く非日常は、私たちに戸惑いと困惑、そして大きな不安を与えています。

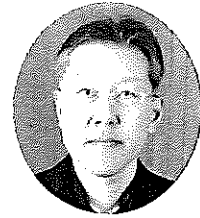
今年度、三笠市教育研究振興会の会長の任を仰せつかりました萱野中学校長の菊地佳子です。宜しくお願ひ致します。

小学校は今年度より、中学校は来年度より、新学習指導要領が完全実施となります。これからの時代は、予測困難な社会状況の中を多くの情報から取捨選択し、判断し、行動しなければならぬと言われています。今、正に実体験をしている最中ですが、このような社会を逞しく生き抜いていく力を付けさせたいということが、今回の学習指導要領の改訂に込められている願ひです。

また、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためにも、三笠市教育研究所、三笠市学力向上プロジェクト会議、小中一貫教育等と連携を密にし、教育振興会としての取組を推進させたいと考えております。三笠の子どもたちの確かな学力の育成に向け、教職員一人一人が向上心を持ち、授業改善に励むよう、ご協力を宜しくお願ひ致します。

教育の現状を考える

三笠中学校 高垣徳人



三笠に赴任して四年目になりました。三笠に来るまでは、地域をあげて「小中一貫教育」にとりくんでいた学校の経験がなく、最初

の頃は戸惑うこともありましたが、中一から中三まで一通り経験することにより、小学校の先生方との定期的な繋がりの大切さや

さて、現在の教育を取りまく環境は、大きく変わろうとしています。その根幹は、国が進める急激な社会変化に対応できる「人材の育成」です。そのため、学習内容は小学校の英語の授業の導入などにより大きく増えています。確かに学力を向上させることは大切ですが、ここ数年の教育の現状を見ると、その方法に不安もあります。それぞれの学校では、学習指導要領をもとに、その地域や子どもたちの実態に合った年間の教育課程を学校独自で編成しています。子どもたちが一年間で、学習活動やさまざまな行事などを通して、バランスよくのびのび成長できることを願うばかりです。

学校教育は、学力ばかりではなく、「人格形成の場」でもあります。そのことを常に念頭において、保護者の方や地域の方とも協力しながら教育活動を進めていくことが子どもたちの将来にとってとても大切だと思います。

令和2年度 教育研究所運営計画

I. 運営方針

今日の教育の方向性や教育の実態等を的確に把握し、教育研究の科学性、時代性、即時性、先導性に立脚した教育に関する理論と実践の研究を行う。併せて、市内各校における教育活動が、意欲的かつ効果的に進められるよう研究・協力・指導・助言の機能を十分発揮し、市教育の振興に寄与する。

II. 運営の重点

1. 新教育課程の編成・実施についての調査・研究に努める。

2. 教育現場の課題を把握し、実践に役立つ調査・研究に努める。

3. 教育に関する情報を広く収集し、提供と活用を努める。

4. 各校と提携・交流を深め、実践課題の究明に努める。

5. 研修事業の効果的な推進に努める。

6. 広報活動の充実と活発化に努める。

7. 振興会等、市内における各種研究機関・団体との連携を深め、所務の円滑な推進に努める。

8. 道研連・各教育研究所・道内教育研究機関・団体との提携・交流を深め、研究事業の充実に努める。

9. 運営委員会を開催し、所務の適正な運営に努める。

III. 運営計画

1. 総務部(鳥巢)

(1) 所務の総括と企画・運営に関すること

(1) 運営計画の企画・立案

(2) 各部署業務の連絡・調整

(3) 所員会議の企画・運営

(2) 関係機関、団体との連絡調整に関すること

① 振興会との連携

ア. 総会・部会結成・研究大会の準備

イ. 実技講座の実施

ウ. その他必要に応じた業務の推進

② 管内教育研究所との連携

ア. 管内教育研究所連絡協議会の開催に関すること

(3) 運営委員会に関すること

① 運営委員会の業務と資料の整理・保管

② 運営委員会と連絡・調整

③ 会議の運営に関すること

(4) 公簿の整理・保管と庶務的事項の処理に関すること

(5) その他、各部に属さないこと

2. 調査・研究部(池亀)

(1) 各種、教育の調査・研究に関すること

① 教育現場、その他の団体からの意見の集約

② 教育関係諸調査の実施と集約

ア. 教育課程に関すること

イ. 学習指導に関すること

ウ. 教科書、その他の教材に関すること

エ. 教育活動に関すること

① 研究課題

「確かな学力を育てる
小中一貫教育の研究」

「生きる力」を育む防災教育の検討

「社会科副読本」私たちの「三笠」編集

「三笠市内閉校小中学校の資料整理(地域学習の充実へ向けて)」

② 研究の方法

ア. 所内で上記の課題について、研修を

深める。

① 専門員会議を開催する。

② 研究成果の普及・奨励に関すること。

③ 研究成果の発表と実践検証の促進

④ 各研究機関・団体・学校等の研究成果の紹介

3. 研修部(高橋)

(1) 教育実践の専門的事項の指導・助言に関すること

① 各校の実践課題及び研究計画を把握し、研究実践に協力する。

ア. 各校研究計画の紹介と交流の促進

イ. 校内研究への積極的参加

ウ. 研究資料、情報の提供

エ. 研究成果の交流

(2) 研究指定校等、各校との連絡・提携に関すること

① 研究指定校及び各校の研究の主体性を尊重し、共同研究の立場で積極的に参加し、協力する。

ア. 研修担当者との連携を密にし、相互理解を図る。

イ. 校内研究、学習会への積極的参加

ウ. 関係機関・団体との連絡調整

エ. 研究課題の研究と共に、資料・情報の提供

② 振興会研究指定校

三笠市立岡山小学校

三笠市立萱野中学校

(3) 所内研修に関すること

① 所内研修の企画・推進

② 各種研究会、講習会への積極的参加と現場還流の促進

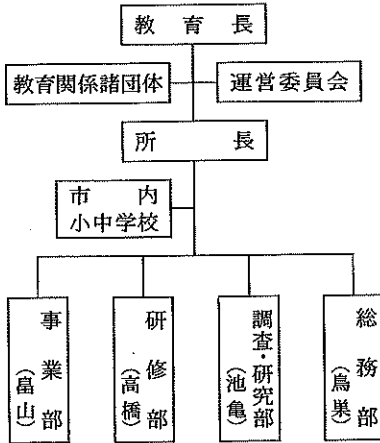
ア. 道研連所員研修会への参加

イ. 全教連、道研連研究大会への参加発表

ウ. その他、研究会・講習会への参加

③ 研究先進地域、学校等の視察・研修

研究所機構図



三笠市教育研究所条例施行規則、第3条の規定により左図のように定める。

4. 事業部(鳥巻)
- 1) 所報等の発行に関する事
 - 2) 資料、文献の収集と紹介に関する事
 - 3) 教育相談に関する事
- IV. その他
1. 教科及び教科外指導の協力・相談について
 - ① 小学校関係担当(鳥巻、高橋)
 - ② 中学校関係担当(池亀、高橋)
 2. 研究指定校の担当について
岡山小学校、萱野中学校(所長、全所員)
 3. 振興会事務局担当(鳥巻)
 4. いじめ問題対策連絡協議会(鳥巻)
 5. 情報教育部会(高橋)
- V. 勤務
- 毎週水曜日・金曜日を定例の出勤日とし、15時から17時まで勤務する。

研究所からは、教育関係の出版物や各種研究資料及び教育雑誌が整理・保管されています。戦後の貴重な資料から今日的な内容の資料まで相当な量の資料があります。お気軽にお電話等でお申し込みください。また、直接研究所にも足をお運びになつてください。お待ちしております。

なお、研究所では今年度、次の書籍を定期購読しておりますので、ぜひご利用ください。

▽教育科学 国語教育(明治図書)

▽教育ジャーナル(学研)

▽教職研修(教育開発研究所)

研究所から 研究図書・資料・雑誌の利用について

今年も開催！ ためになる「夏季講座」

新型コロナウイルスの対応で、実施変更も検討しておりますが、現在準備を進めております。教育活動のさらなる充実に向け、ぜひ研修を深める機会にさせていただけたらと思います。

本年度は冷房完備の市民会館を会場とし、昼食は、三笠市ジオパークの様々な要素が具材で表現された「三笠市ジオパーク駅弁当」を斡旋しております。三笠の「お宝」を食べるお弁当、ぜひ一度ご賞味ください。

所員一同、よい講座になるよう準備しております。多くの方のご参加をお待ちしております。



- 【期日】令和2年8月3日(月)
- 【会場】三笠市公民館
- 【日程】8:45～ 受付
- 9:00～ 開会式
- 9:10～ 講座1 地域学習教育講座「地域のお宝を活用したふるさと学習の取り組みについて」講師:三笠ジオパーク推進協議会 事務局次長 下村 圭 氏
- 10:30～ 講座2「防災教育の展開について」講師:北海道総務部危機対策局危機対策課 教育訓練係 窪田 太一 氏
- 12:00～ 昼食・三笠市ジオパーク駅弁当
- 13:00～ 講座3 特別講座「小中連携した教育のための方策」講師:文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 中学校数学学力調査官 佐藤 寿仁 氏
- 14:45～ 閉会式

地域素材めぐり「まるごと三笠」

今年もやります！三笠の自然、炭鉱遺産、歴史を「まるごと」楽しむ地域素材めぐり「まるごと三笠」。今年度の見学予定地は、音羽坑、桂沢ダム、野外博物館を予定しております。どちらも、ジオパークガイドによる説明があり、三笠について深く学べます。また、今年もレストラン「Geovillage」にて昼食を予定しております。



ciel 三笠市の地名にちなみ屋根に「三つの笠」をデザインしています。

申し込みは、各学校で回覧される申し込み用紙にご記入ください。締め切りは、7月10日です。ぜひご参加ください。※新型コロナウイルスの対応で変更もあります。



三笠市野外博物館

- 【日時】8月5日(水)9:00～15:00
- 【内容】地域素材の見学及び説明(ジオガイド付き)
- 【見学予定地】音羽坑、桂沢ダム(原石山)、野外博物館
- ※昼食～レストラン「Geovillage」
- ※雨天時～鉄道村、三笠インプログレス、博物館、三笠市文化芸術振興施設「ciel」
- ※昼食～レストラン「Geovillage」

編集後記

今年度最初の所報「教育三笠」を発行することができました。教育委員会、各教育関係機関、ならびに教職員の皆様に原稿の執筆等のご協力をいただきました。感謝申し上げます。年4回の所報「教育三笠」を通して、三笠の教育の動向をご理解いただける一助になれば幸いです。

研究所は、水曜日と金曜日の午後3時から

▽総合 教育技術(小学館)

※他にも希望する研修図書や雑誌等ありましたら、研究所にお伝えください。

5時まで所員が勤めております。日々の実践に活用していただける資料も多数ありますので、お気軽にお越しください。今年度も研究所へのご協力をお願いいたします。

三笠市教育研究所所報

発行日 令和2年6月5日

発行所 三笠市教育研究所

代表 松井 敦子

三笠市若草町404

電話 212-197番

印刷所 中央印刷株式会社